

● 「リスニングハンドブック」 見本

※実物 (A4判) を70%に縮小しています。

Handbook

1. リスニングのルール

— Natural speedについていくために

① 「消失」

よく英語は個々の発音よりアクセントやイントネーションが重要だと言われます。単語にアクセント(強弱)があるだけでなく、文も、強弱をつけて話したり読んだりされます。

この時、アクセントのない部分は弱く発音され、聞こえにくくなります。

こうした弱音の部分は弱いだけでなく、往々にして、物理的にも発音されていないことが多いのです。このように発音されずに消失してしまう現象を「消失 (elision)」と呼びます。

消失現象がどのような場合に起こるのかを知り、その前後や文全体のリスニングのコツを見ていきましょう。

■消失のルール(1)→アクセントのない語頭の母音は消える。

□Excuse me.

「すみません」

「クスキューズミ」のように発音されます。excuseは第2音節の-cu-の部分にアクセントがある語ですから、-cu-の部分を強く発音するあまり、文頭のE-の音が消えてしまうのです。

□I'm exhausted.

「もうくたくただよ」

exhaustedの部分は、「グゾーステッ」のように発音されます。アクセントは-hau-の部分にありますので、語頭のe-の音が消えてしまいます。

■消失のルール(2)→アクセントのある音節の直後の母音は消える。

□Your idea is exceptional!

「君のアイデアはととてもすばらしい」

exceptionalは「クセプシュノー」のように発音されます。exceptionalの語頭は消失し、アクセントがある-ce-の直後の-tionalの部分は母音が消失して、「シュ」のように発音されます。

□Attention, please.

「ご注目ください」

Attentionの部分「テンシュン」のように発音されます。語頭は消失します。アクセントの直後の-tionの部分は母音の消失で「シュン」のように発音されます。

④ 「連結」

前の単語の語尾の子音と次の単語の語頭の母音がつながってひとまとまりの音として発音される現象を「連結 (linking)」と言います。

「リエゾン (フランス語=liaison)」と呼ぶこともあります。

日本語は基本的に単語が母音で終わるため連結現象が起こりにくく、こうした要因も影響してか、連結現象は日本人には聞き取りにくい現象の1つになっているようです。

連結現象は、英語ではかなりゆっくりと話されるときにも発生するので、十分に慣れておく必要があります。

(注) フランス語のliaisonは、通常は発音しない語尾の子音を、あとに母音が続く場合に つなげて発音することを言いますから、英語のlinkingとフランス語のliaisonは実際には同じではありません。

次のような場合に、よく連結が起きます。

■連結のルール(1)→語尾が [n] [t] [k] [p] [r] などの発音で終わる語のあとに母音が続く場合。

右のカタカナ表示のように発音されます。音声CDで聞いてみましょう。

I mean it. [アイミーニツ] → 「本気だよ」

in a few minutes [イナフエミニッツ] → 「2、3分で」

Take it easy. [テイキリーズィ] → 「気楽に行こうよ」

Drop it off. [ドゥラッピロフ] → 「止めろよ」

Knock it off. [ナッキロフ] → 「早く片付けろ」

Cut it out! [カリラウ] → 「止めてくれよ」

half an hour [ハフアナワー] → 「30分」

after all [アフタロール] → 「結局」

—以下割愛—